

質問事項		記述式回答
来年秋を見据えて、現在の景気の基調		
1	9月16日の経済財政諮問会議において、2015年秋を見据えて、現在の景気の基調を見る際、以下の5項目について今後注視すべきとされました。これらを参考に、現在の景気の基調や考慮すべきリスクをどうご覧になっているか、また、とるべき対応があれば、合わせて300字以内でご記入ください。 ① 消費の安定的増加、それを支える雇用者数・賃金の伸び(正規比率の上昇を含め)や消費マインド ② 企業収益の動向、民間設備投資の強さ(設備投資計画の動向も含む) ③ 輸出入の動向、交易条件の動向 ④ 物価動向(一時的要因を除いた実勢と期待物価) ⑤ マーケット(株価、為替、金利等)の動向	沖縄県では、耐久消費財にみられた一服感が払拭されつつあり、消費が安定的に増加していることから拡大の動きが強まり、当行シンクタンクは景況判断を上方修正した。ただし、就業者数、名目賃金ともに前年を下回って推移し、物価上昇率は消費税率引き上げの影響を考慮すると上昇基調がやや鈍化している可能性がある。また、日銀短観(那覇支店)では先行きの価格判断の上昇超幅が販売を仕入が大きく上回っており、価格転嫁困難による収益悪化を懸念している事業者が多いものとみられる。今後の景気拡大持続には、消費意欲を減退させない程度に価格転嫁がなされることで企業収益が改善し、雇用・賃金の上昇につながっていくかがポイントと考える。
地方創生・地域活性化		
2	地方創生・地域活性化に向けて、重点的に取り組むべき課題及び対応策につき、ご自身(自社)の知見・経験も踏まえてお考えを300字以内でご記入下さい。その際、地方が抱える課題の背景についても、併せてご記入下さい。	地方創生・地域活性化には、安心して働ける「しごと」づくりが重要と考える。沖縄県では「沖縄21世紀ビジョン」において、沖縄の強み・潜在力である豊富な若年労働力を活用した新リーディング産業の育成を課題に掲げている。その取り組みの一つに東アジアの中心に位置する地理的優位性を活かした国際物流ハブ機能の活用があり、国際物流特区制度による優遇税制のほか施設整備、活用推進事業等に予算が投下されている。これにより関連企業の進出による雇用創出がみられるほか県産品の輸出量も増加しており、県内企業の活性化による雇用の広がりも期待される。こうした地域の特長を活かした財政措置により民間活力を引き出す取り組みが望まれる。
その他		
3	10月下旬の為替相場は107円台付近で推移しています。最近の為替相場の動向やその景気への影響について、ご見解があれば300字以内でご記入ください。	沖縄県は大幅な輸入超過であり、円安は燃油費や電気料金その他輸入品の価格上昇等を通じて消費抑制に作用すると考えられる。しかしながら、消費者物価は消費税率引き上げの影響を除くと上昇しておらず、ガソリン価格はむしろ足元下落している。このような中、消費は安定的に増加しており、主要産業である観光では外国客が好調に推移するなど、現在のところ円安の好影響が強めにあらわれている。ただし、原材料等に輸入品を使用している企業は円安等による仕入価格の高騰を価格転嫁できず収益を圧迫しているとの声があり、円安が長期化または進行すれば、企業収益の悪化、物価上昇等景気への悪い影響が強まる可能性があることに留意が必要である。